

2024. 10. 13 開催 生涯研修演題と抄録

平栗 布海（ひらくり ふみ）先生



演題：『大野の台形法 (Trapezoidal analysis) 受け継いだ
原理原則と発展』

宮城県白石市白山デンタルラボラトリー総義歯研究所の歯科技工士故) 大野健夫先生がご考案された、通称“大野の台形法”は、人工歯排列のガイドラインとして認知され、今日では冠補綴やステント、インプラントなど義歯技工だけでなく様々なシーンで活用されている。

大野の台形法は、さかのぼること30年前の1994年、大阪大学歯学部有床補綴科の野首教授らの招致で「シンメトリーな咬合床の作り方」として、公式に発表されたことに始まっている。その後さまざまな改良を重ねられ、今日に至るまで実に30年。普遍的な理論として、技工士や歯科医師に受け継がれ、現在では海外にも理論が伝わり、好評を得ている。

これらのことから、エヴィデンスに基づいた台形法は、総義歯学の古典である Dr. ギージー、Dr. ゲルバー理論に続き、日本の Dt. 歯科技工士が生んだ誇り高き、模型分析法であると確信している。

大野の台形法といえば義歯製作に携わる東北の歯科技工士であれば一度は耳にしたり、実践をされておられる方も多いと推察するが、今回はあらためて、故人大野先生を偲び台形法を習った弟子のひとりとして、台形法の原理原則をさらいなおし、私が18年臨床で実践してきた気づきなどを共有したいと考えている。

≪講師略歴≫

平栗デンタルサービス 平栗 布海 (fumi hirakuri)

1986年 東北歯科技工専門卒業

1994年 平栗デンタルサービス開業

2011年 産業能率大学

情報マネジメント学部 現代マネジメント学科卒業

2020年度 公益社団法人日本歯科技工士会

テクニカルレビュー・サイエンス部門最優秀論文賞受賞

主な修了コース

2007年 川島 哲金属床7カ月コース

2008年 大野健夫 総義歯6ヶ月コース

2014年 PTDLABO 芦屋 堤 嵩詞 総義歯セミナー

2017年 Max Bosshart Swiss ゲルバーメソッドセットアップコース

所属

宮城県歯科技工士会 学術理事

日本顎咬合学会 認定歯科技工士

有床義歯学会 認定・指導歯科技工士

一般社団法人日本ノートメソッド協会 認定方眼ノートトレーナー